

家康伊賀越え逃走路検討

■着眼・考慮点

1. 地形・・・当時と現在の違い
 - ①山、川、池には、変化が少ない
 - ②道・・・昔は、幅が狭い、現在の府道は、昭和以降
2. 逃走には道案内人がおり、手助けした者がいる
 - ①長谷川秀一(信長の家来)は、人的ネットワークあり(大和・宇治田原・信楽に有力な知り合い・協力者を持つ)
 - ②住吉平田神社(四條畷):三牧家神主が妙見宮(星田):和久田家神主を紹介
平田神社:石山の合戦で信長が休憩場所に使った
 - ③京田辺のところは、だれもいないが、ぼったり出会った普賢寺の百姓新八、草内の渡しを手伝った飯岡の小山佐太郎(家系図)は土地に伝わること
3. 時間的なこと
 - ①逃走期間は、3日間。(公式記録の徳川実紀は6日間。権力者の都合の良いように歪められている)
 - ②宇治田原の新十左エ門末次の家譜(1650年:京都所司代報告)
6/3 10時 宇治田原到着、6/3 12時 山口城で食事 → 信用し、逆算すると → →
6/3 8時頃 草内の渡し、6~7時には、家康一行は草内の渡しに到着
 - ③6/2 4時 本能寺の変起きる → →
8時 茶屋信長自刃と知り、12時 交野(星田):本多に伝え、14時 飯盛:家康に伝わる
~18時 逃走路検討会議、20時 星田妙見宮まで
5時 家康塚(妙国寺)出発、
4. 塚~四條畷までは、武者行列
四條畷以降が逃走となり、間道、抜け道に行く
5. 家康、老臣が馬に乗る、その他は、歩行
6. 八尾街道を歩いた報告:住吉神社~久宝寺 3時間、ルート明確
明治41年陸軍全国測量地図
7. 京田辺周辺の明治後年の地図(穂谷・尊延寺・天王・集落の大きさ、たなべの小ささ)

家康伊賀越え逃走路検討

1. 石川忠総留書

石川忠総(－1651、伊賀越えに同行した大久保忠隣次男、父、近親同行者から聞く)
 堺－平野－阿倍－山ノねき－ホタニ－尊念寺－草地－宇治田原

2. 西井長和説(星田郷土史家、1982年伊賀越逃走記、土地の伝承に基づき組立てた)

堺－柏原－船で河内湖を渡り、深野池東岸(北条)－飯盛山山麓－住吉平田神社
 －妙見宮－ひそみの藪－西庄田－狭戸(せぼど)－穂谷－興戸－飯岡－井手－和東
 －信楽 ※かいがけの道は、星田～穂谷の最短路として浮上(あるブログ)

3. 徳川実紀 江戸幕府公式記録(19世紀後半、家康の記録は、東照宮御実紀)

逃走路としては、武徳編年集成を参考にして記述。
 権力者の都合のよいように歪められている。6日間の逃走。
 飯盛山の麓、河内の尊圓寺村、山城の相樂山田村、木津川渡し

4. 泉堺紀事 柏崎永以(－1772、江戸中期国学者)、日本風土輯記、古今沿革考 守口、佐多天神(萱島)、河内国交野郡穂谷村尊円寺村、宇津木越、 山城国相樂郡普賢寺谷、山田村

5. 信長公記 太田牛一(右筆、武将・官僚)、信長公式一代記(1589)、記述極少 然るに、徳川家康公、穴山梅雪、長谷川竹、和泉の堺にて、信長公御父子御生害の 由承り、取る物も取り敢へず、宇治田原越えにて、退かれ侯ところ、一揆どもさし合ひ、 穴山梅雪生害なり。徳川公、長谷川竹、桑名より舟にめされ、熱田湊へ船着なり。

家康伊賀越え逃走路検討

6. 武徳編年集成 木村高敦（1741、幕臣）、家康伝記、偽書、訂正・書替し吉宗献上
 - 6／2 森口の辺り、変を聞く
普賢寺谷の南相楽郡山田村に泊、梅雪、神君を疑い別れその家来が、案内人の銀の鐙を奪い、土人が梅雪を草内村で殺害
 - 6／3 木津川、長尾村の八幡山宿泊
 - 6／4 石原村、白江村、老中村、江野村、呉服大明神の神職、服部貞信、多羅尾丸柱宮内の館に止宿
 - 6／5 伊賀、柘植、鹿伏兔 止宿
 - 6／6 伊勢白子の浦 碧南郡大浜着岸(角屋の大船)
7. 枚方の歴史(馬部隆弘ほか、2013年、**石川忠総説推挙**)
堺—生駒山麓—東高野街道—山根街道—津田—尊延寺—田辺街道—山城
～**山中に入り(山岳修験宿坊・往来あり)**～**津田郷内穂谷・尊延寺**～
8. 新十左衛門末次京都所司代報告書(1650、山口城家臣、新家家譜)
先年権現様泉州堺ヨリ御国へ御下向成サレ候御道筋、河内地ヨリ**山城普賢寺谷ヲ御越エ成サレ**、草内村ノ渡ヲ御越成サレ候。
権現様宇治田原御通りハ天正十壬午年六月三日ノ**巳ノ刻**、山口本城ニテ御膳ヲ召上ラレ**午ノ刻**出門遊バサレ、信楽越エニ御通り成サレ候、
 禅定寺文書(1582.6.5 山口城主が、家康一行に対する禅定寺の取計らいにお礼)
 奥田家家系図(山口城の奥田仁義が手伝う)

家康伊賀越え逃走路検討

9. 川崎記孝(2002、家康と伊賀越えの危難、伊賀郷土研究)

堺—平野—飯盛—枚方—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城—山田—
甲賀山中—信楽—小川城—御斎峠・神山—丸柱—石川—河合—柘植—鹿伏兔—関—
亀山—庄野—石薬師—白子—那古(長太)～大浜—岡崎

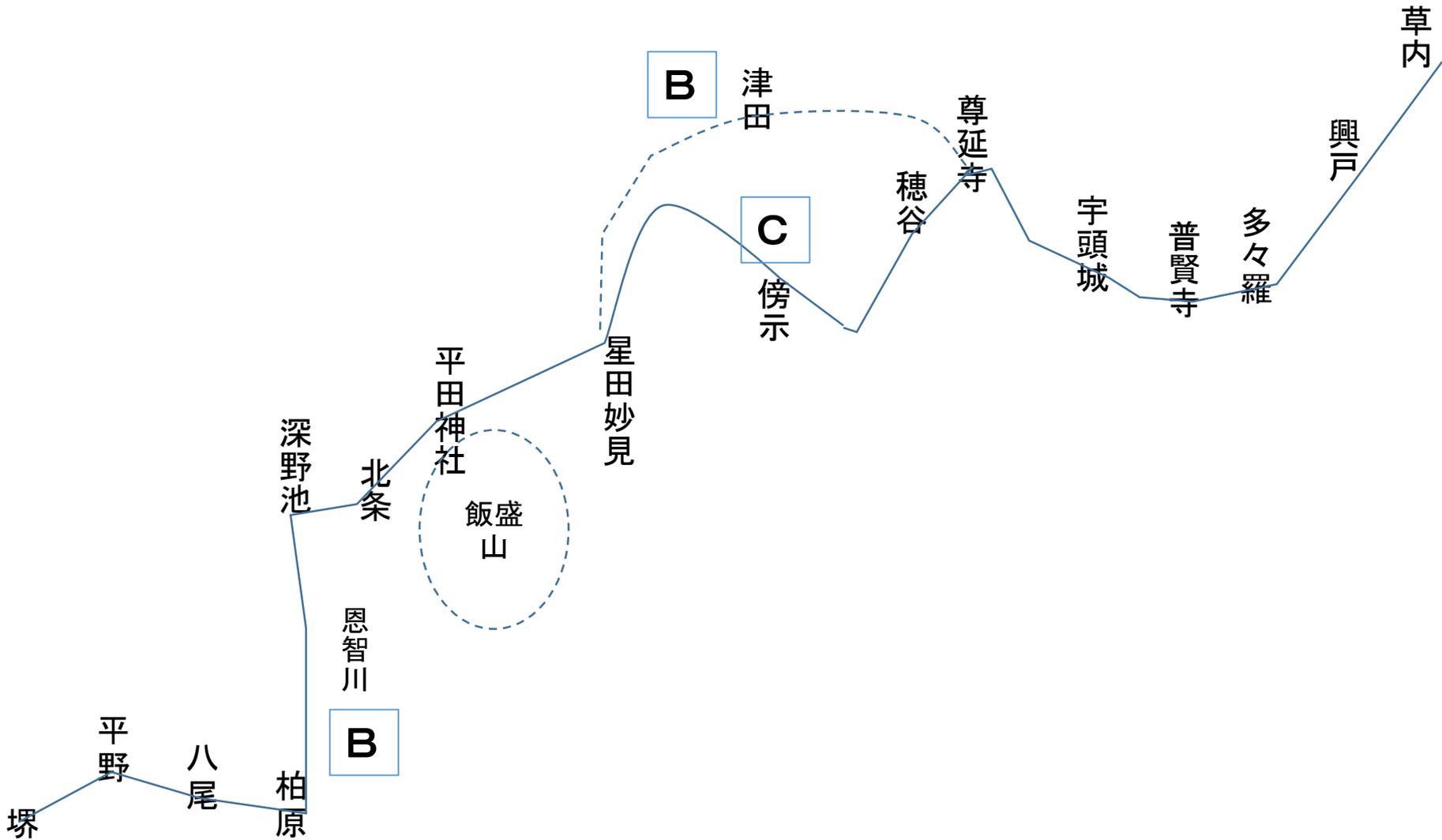
10. 池田裕(2005、忍者研究家)

堺—阿倍—平野—山のねき—柏原—飯盛山麓—星田妙見—津田—穂谷—尊延寺—
氷室—天王—普賢寺—水取—多田羅—興戸—草内—長尾村八幡山—石原村—
郷之口—山田村—裏白峠—信楽—小川城—桜峠—神山—丸柱—音羽—河合—
御代—柘植—加太—白子～大浜—岡崎

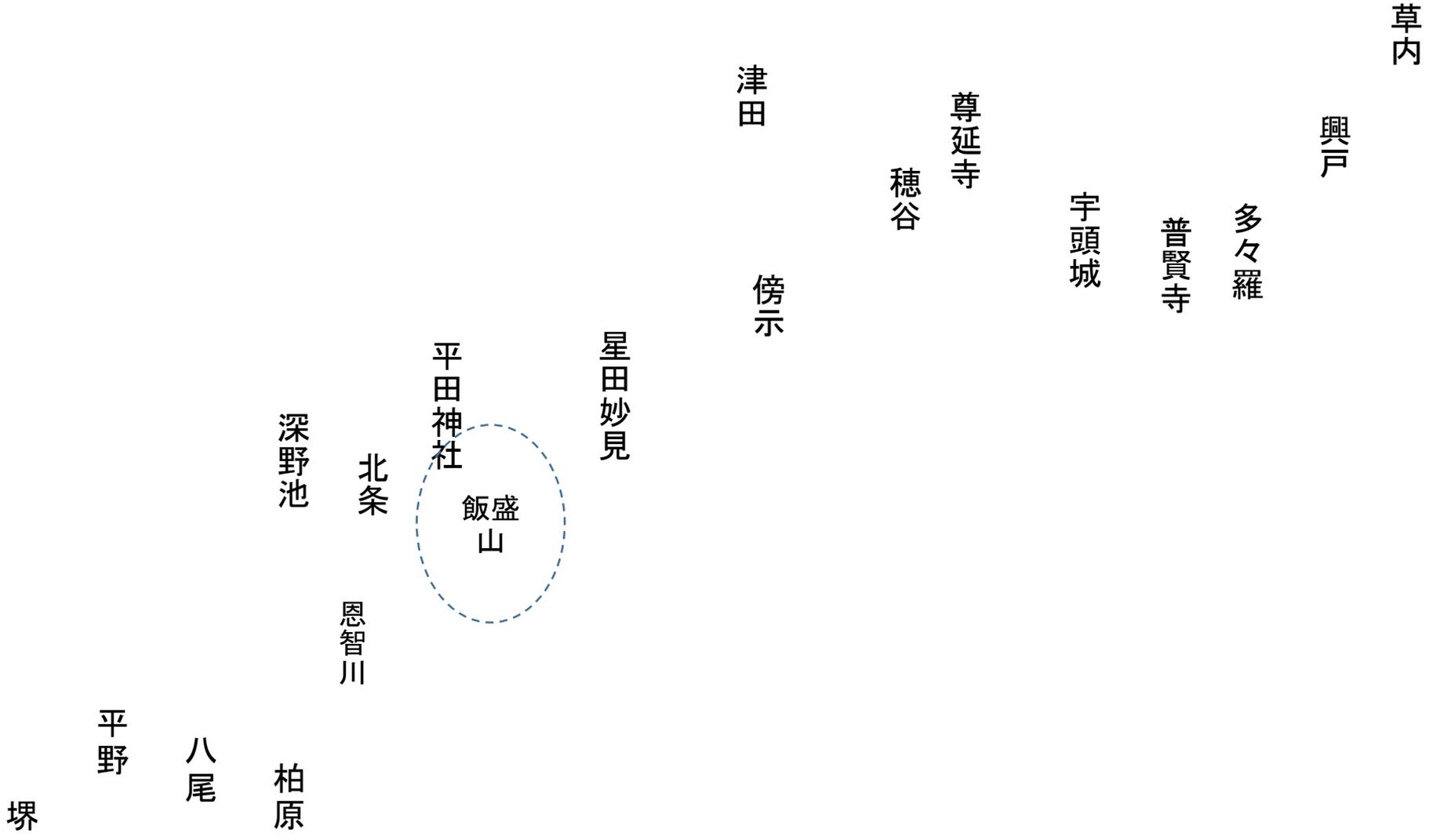
■整理してみると、

- A 堺—平野—飯盛—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城
- B 堺—平野—八尾—柏原—恩智川—ふかうの池—北条—住吉平田神社—星田妙見—
津田—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内—
- C かいがけの道 —傍示—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内
- D —穂谷— 槍越え —興戸 —草内
- E —穂谷—尊延寺— 河内峠 —草内

家康伊賀越え逃走概略図



家康伊賀越え逃走概略図



家康伊賀越え逃走路[堺~宇治田原(郷之口)]

日時	通過場所	出来事		津田通過説
6/2 6時	堺(妙国寺)	信長に御礼の為に京都へ	↑ 逃走ではない 堂々と通過 ↓	
(現7/1)	住吉大社			
	平野・八尾			
	恩智川(舟:北上)	山のネキ(山根着川)		
	ふかうの池	北条		
10~14時	住吉平田神社	変を知る、大作戦会議	コース連絡手配	
	星田	伝:ひそみの藪(深夜?)		
	傍示(ぼうじ)	かいがけの道	星田~穂谷最短路	●津田 信長津田を攻め恨みあり、 家康避ける?
19時	穂谷	新八と出会う、仮眠休息	伝:白井家宿泊	
	尊延寺(そえんじ)		●出会わなければ 槍峠か	
	宇頭城(うつぎ)	地元新八が道案内	田辺街道(河内峠)	
	普賢寺・多々羅			
6/3 8時	草内の渡し (くさじ)	小山佐太郎:舟を準備 対岸:山口城家来出迎え	九寸の七首もらう (小山家家譜図:出島)	
10~12時	郷之口	山口城で昼食、馬取換え	京都所司代報告書	1650年